
<トーク&とーく> NPO法人「ライフリンク」代表 清水康之さん 新しいつながりが、
新しい解決力を生む 痛みと向き合う社会に
2007.02.09 朝刊 25頁 二神東 (全913字)

清水康之さん NPO法人「ライフリンク」代表 新しいつながりが、新しい解決力を生
む 痛みと向き合う社会に

NHKのディレクター時代、多くの中高年男性の自殺取材した。今もたった十三、十
四歳の子どもが命を絶っていく。子どもから大人まで全国で一日九十人が自殺している。
みんな「ごめんなさい」と謝って自殺していく。

「自殺なんて自分にはかわりがない」と人は思いがちだが、少し周囲を見渡すと追い
詰められている人がたくさんいる。大切な人を自殺で亡くした人もいる。

自分が携わっている仕事で何ができるか。考えれば、たくさんある。自殺対策とは、死
ぬ直前の人だけでなく、世の中に「生き苦しさ」を感じている人すべてを含めて考えるべ
きだ。

自殺は仕事や金銭、人間関係など日常的問題が深刻化、あるいはプラスアルファの負
担によって起こる。自殺の多くは「追い詰められた末の死」であり、社会問題が最も深刻
化した末に起きる。

見方を変えれば、自殺は私たちが抱えるさまざまな問題と地続きといえる。自殺が減
るといことは、私たちが日常を生きやすくなるということだ。

昨年六月、自殺対策に関する初めての法律、自殺対策基本法が成立した。自殺禁止法で
はなく、生きる権利を守るための法律であり、自殺を社会問題として関係者の綿密な連携
の下で対策を講じるよう定めている。

ライフリンクは、「新しいつながりが新しい解決力を生む」がモットー。行政、弁護士、
医療関係者、研究者、マスコミなどがつながり、実務的な対策と啓発に取り組んでいる。

これまで自殺の解決策がなかったのは、私たちが無力だったのではなく、小さな力でつ
ながることができなかったためだ。今、信念は確信に変わっている。

本当に生きやすい社会とは、痛みと向き合い、悲しいことを悲しめる社会。阪神・淡路大震災で多くの痛みを経験した神戸、兵庫県に、自殺対策についても期待したい。

(1月22日、神戸市中央区での自殺対策を考える講演会で)(まとめ・森本尚樹)

しみず・やすゆき NHK時代、自死遺児との出会いをきっかけに自殺問題に関心を持ち、2004年10月、ライフリンクを設立。自殺対策基本法の成立にも尽力した。

神戸新聞社